

チヨースーの複合に関する覚え書 (II)

及 川 典 巳

0. チヨースー (Geoffrey Chaucer, ? 1340-1400) の作品に起こる複合名詞のいくつかを例にして、その系譜をたどってみると、彼より前に、あるいは彼と同時代に、主としてイギリスの東・南部に流行していた韻文のロマンス (metrical romances) ときわめて密接な関係があることに気付く。この掛かり合いについては、早くから注意されていたのであるが、それは主にチヨースーの「サー・トープス」 (*The Tale of Sir Thopas*) の出典・類話をめぐるものであり、また彼のこの詩が、たとえ限られたものにたいしてであったにせよ、ロマンスにたいする痛烈なパロディーであったということから、この関係はどちらかといえば否定的に扱われていた¹⁾。だが、最近では、その反対に、このロマンスをチヨースーの言語や文体の直接の伝統だとする見方がつよい²⁾。そこで、こうしたことを背景に、複合名詞という視点から、これら両者の詩語における関係がどのようなものであるのかを調査した結果が、以下に略述しようとするものなのである。なお、ここで対象に選んだ8編のロマンス³⁾、ならびにチヨースーの作品に起こる複合語の一部については、資料提供という意味から、目録のかたちで紹介することにした。さらに少しく付言すれば、以下がチヨースーの複合名詞に関する外面史の一端を述べるものとして、本稿を「覚え書」における複合名詞の論考の一部として加えたわけである。

- 1) cf. L. H. Loomis, "Sir Thopas", *Sources and Analogues of Chaucer's Canterbury Tales*, ed. W. F. Bryan and G. Dempster (New York: The Humanities Press, 1958), pp. 486-96; Dieter Mehl, *The Middle English Romances of the Thirteenth and Fourteenth Centuries* (London: Routledge and Kegan Paul, 1968), pp. 255-56.
- 2) cf. D. S. Brewer, "The Relationship of Chaucer to the English and European Traditions", *Chaucer and Chaucerians*, ed. D. S. Brewer (London: Nelson, 1966), pp. 2-15.
- 3) *King Horn* ? 1225 (c 1300 Cambridge University Library [Cmb]). Southwestern (SW). French, W. H. & Hale, C. B. *Middle English Metrical Romances*, (1930; rpt. New York: Russell and Russell, 1964), pp. 25-70.
Floris and Blancheflour c 1250 (a 1400 Sutherland MS). SW. French & Hale, *op. cit.*, pp. 823-55.
The Lay of Havelok the Dane ? c 1275 (a 1400 Cmb). East Midland (EMid). French & Hale, *op. cit.*, pp. 74-176.
Amis and Amiloun ? c 1300 (c 1330 Auchinleck MS [Auch]). EMid. EETS 203.
The Romance of Guy of Warwick ? c 1300 (c 1330 Auch). EMid. EETS 42, 49, 59.
Reinbroun ? c 1300 (c 1330 Auch). EMid. EETS 59, pp. 631-73.
Sir Orfeo (c 1330 Auch). EMid. Bliss, A. J. 1966. Oxford.
Sir Degaré (c 1330 Auch). EMid. French & Hale, *op. cit.*, pp. 288-320.

1. ところで、古英詩の詩語の伝統を中英語の時代のはじめにおいて忠実にうけとめた詩人は、たとえば、ラヤモン (Layamon) であったといってよい。それは、『ブルート』 (*The Brut*, c1205) という彼の長編の詩に起こる複合語を例にとってみればわかる。それらの多くは美しく、詩的純度のたかい、いわば伝統を彷彿させる頭韻複合語であった。(e.g. *erthehouſ* 'cave', *lifdaweſ* 'days of life', *middlerd* 'earth', etc.) さらに、このような詩語の伝統は、中英語期の詩の一方の主流となる頭韻詩の作者たち、たとえば『ガウエイン』の詩人 (*Gawain poet*) に譲りわたされていくわけだが、これらの経緯についてはオークデン (J. P. Oakden) の研究にくわしい⁴⁾。

いっぽうで、この『ブルート』に少しおくれた『ホーン王』 (*King Horn*, ?c1225) や『デンマーク人ハヴェロック』 (*The Lay of Havelok the Dane*, ?c1275, 以下『ハヴェロック』と略す) などの前期に属するロマンスは、その詩形や詩風という面で、かなりラヤモンに共通するところがありながら、詩語、とくに複合語を例に見るかぎり、古い伝統とは決定的といってよいほどの隔絶を示している。たとえば、『ホーン王』にはじめて起こる複合名詞といえ、つぎのようなものである (e.g. *chambre-wowe* 'chamber-wall', *dure-pin* 'a bolt of a door', *wude-side* 'the edge of a wood')。そして、これはロマンスの複合語全般についてもいえることだが、『ブルート』のような頭韻詩に比べて、作品における生起数ははるかにすくなく、またその複合名詞のどれもがたんに具象名詞 (concrete noun) を並べたにすぎない散文語、つまり普通は散文にしか用いられないものであった⁵⁾。しかし、これら韻文のロマンスの作者たちが、ロマンスという名称にふさわしく、その物語詩のなかに、大衆的な、あるいは今様の要素を盛りこむために、なかばは意図して、またなかばは即興として、大胆に俗語や外来語などを詩語に導入したのであらうと想像してみれば、かれらの複合語にみられる上に述べたような性格の理由は説明できるであらう。さらにまた、その散文性なるものが、頭韻詩に比べて、かれらの詩語におけるひとつの重要な特徴であったといえることができる。

たとえば、このような傾向は『ハヴェロック』の語彙にいちぢるしい。その語彙はまた、チャーサー以前に、すでに「チャーサー的なもの」を予想させるものとして注目値する。まずこの作品には、前期のロマンス3編に初めて起こる複合名詞の大半が、またほかに例

4) J. P. Oakden, *Alliterative Poetry in Middle English: A Survey of the Tradition*, II (1935; rpt. Archon Books, 1968), pp. 113-68.

5) 当時、詩語の散文化、また日常語使用の傾向は一般の傾向でもあった。たとえば、オークデンはラヤモンの『ブルート』の初稿の約半世紀後の写本における異同を調査し、初稿の複合語の多くがのちの筆写生によって改竄をうけ、また散文語がかなり増加した事実を認めている。古英詩の詩語がすでに古語となり、聴衆に理解できなくなっていた。しかし、ロマンスの場合、作品本来の要求から、さらに散文化の傾向が助長されたと考えてよい。ちなみに、前期ロマンスの複合名詞のうち、『ブルート』に起こる15語について、オークデンの考証により、詩語か散文語かを調べると、半数が『ブルート』において散文語であり、伝統的な詩語はわずかに4例にすぎない (e.g. *bere-man*, *lif-dawe*, *man-rede*, *mydlerde*). cf. Oakden, *op. cit.*, pp. 132-33.

のない独特の語のすべてが使用されている (e.g. *drit-cherl* 'a worthless fellow', *fir-stick* 'firewood', *kradelbarn* 'a babe in the cradle', etc.)。また、混種語の例も多い。たとえば, *drit-cherl* (ON *drit*+OE *ceorl*), *hern-panne* (ON *hernes*+OE *pan(en)*), *grith-sergean* (OE *qrith*+OF *sergeant*), *luue-drurye* (OE *lufu*+OF *druerie*), *romanz-reding* (OF *romanz*+*reding*) など。さらに、物語詩の内容やその聴象にふさわしい文体、またこの文体に相応する語の使用ということに、いかにこの作品がすぐれていたかの用例を引いておく。

(1) 直接話法の使用⁶⁾:

Godard stod and lokede on him
Thoruthlike, with eyne grim,
And seyde, "Wiltu ben erl?
Go hom swithe, fule *drit-cherl*;
Go hethen, and be eueremore
Thral and cherl, als thou er wore."

(11. 679-84)

(2) 比喩:

He maden here backes also bloute
Als he [re] wombes, and made hem rowte
Als he weren *kradelbarnes*,
So doth the child that moder tharnes.

(11. 1910-13)

これらの用例に見られる、たとえば「母をなくして泣きさげぶ赤子のように」といった比喩がロマンスに特有な表現になっている理由には、その素材が洗練された貴族の生活からよりも、むしろ生き生きと躍動する民衆の生活からとられたことのほかに、*kradelbarn* や *drit-cherl* といった日常の語彙を新しく詩のことに起用したことも見逃せない事実なのである。

ところで、この『ハヴェロック』のように、あるロマンスが初めて物語られるとき、その主題や文体⁷⁾に相応した複合語がいくつか新しく造られた。そのうちのあるものはロマ

6) 次注参照。

7) ロマンズの文体については、トラーンズが主として後期の脚韻詩を対象に、「紋切り型の形容語、誓いの言葉、^{いくさ}戦の描写での頭韻句の頻用、また^{ノルウェー}北欧伝説に見られるような直接話法の使用など」多くの特徴を指摘し、さらにこれらが脚韻ロマンスに共通して起こるところから、そこに詩の一流派、伝統の確立を推定している (A. McI. Trownce, "The English Tail-Rhyme Romances", *Medium Ævum*, i, 1932, pp. 98-99.)。しかし、これらの特徴のあるものは、『ハヴェロック』に見られるように、物語詩に固有な文体として前期・後期のロマンスに共通に観察できる。

ンスに特有の詩語として、さらにほかの作者へと、またのちの写本へとつぎつぎに伝えられていった。たとえば、「戦」に関する語彙では、前期の *deth wounde, hand-ax* に *bor-heued, damsax, deth dint, scheltrome* など、また「愛」については、*luue-drurye* に *love-longing, love-morning* が加わるのは、ロマンスにおける語彙の拡充の例であり、さらにそのもうひとつの特徴である語彙の共有への傾向は、つぎの *girdel-stede* 'waist' の例によくうかがえる。

[*girdel-stede*]? a 1300 *Arth. & M.* (Auch) 5216 — ? c 1300 *Guy* (Auch) 3582 — c 1330 *Orfeo* (Auch) 24/266 — c 1380 *Firumb.* (Ashm) 1707 — ? a 1400 *RRose* (Htrn: Robinson) 826 — c 1410 Lovel. *Merlin* (Corp-C) 14267 — a 1450-1509 *Rich.* (Brunner) 6854 — ? a 1400 *Roland & O.* (Add) 548 — a 1400 *Brut*-1333 (Rwl B. 171) 11/11 — ? a 1400 *Chester Launfal* (Clg) 290 — a 1500 *Arth. & M.* (Dc) 546.⁸⁾

こうした事情を考えると、たんに複合名詞という詩語の一部分だけを例にしても、『ブルート』の依る伝統とは別の新しい態度がこのロマンスに生まれ、前期から後期へのその歴史のなかで独自の詩語の伝統が形成され、発展していったと想像することができる。そして、チャーサーが『ホーン王』からほゞ一世紀ののちに、初めて詩作の筆をとったとき、すでにロマンスの詩語の伝統はほゞ完成し、また固定化のきざしがすでにあったといえてよい。

以下、このロマンスの伝統がいかにかにチャーサーの作品に連続し、またどれほどの位置を詩人の詩語のなかで占めているのかを、複合名詞の具体例についてみることにしよう。

チャーサーの『キャンタベリー物語』(*The Canterbury Tales*)の「商人の話」(*The Merchant's Tale*)に、メイ(May)という女主人公にあてた「輝く夏の日のように美しい」(as fressh as is the bright somers day)という比喩がある⁹⁾。この詩行に起こる *summer's day* を例に¹⁰⁾、その出処をたずねてみる。

- (1) Hit was upon a someres daye.
(*Horn*, 29)
- (2) Lordinges, listeneth to me now!
Of a tresoun ichil telle you:

8) *MED* s.v. *girdel-stede*.

9) *CT. MerchT*, 1896. なお、本稿におけるチャーサーの引用はすべて *The Works of Geoffrey Chaucer*, ed. F.N. Robinson (London, 1957) によっている、ただしイタリック体は筆者。

10) *OED* s.v. *Summer's day*. この辞典に記述されているように、古スカンチナピア語 (OFris) の *sumersday* の存在は、またこの複合語が英語において古くから存在し、使用されていたものと考えられる。

It was opon a *somers day*.

(*Guy*, 2449-51)

- (3) The *somers day* was fair & briht,
The sonne him schon thruch lem of liht,
That semly was on to se.

(*Amis*, 522-24)

- (4) He com into a fair cuntray,
As bright so sonne on *somers day*.

(*Orfeo*, 351-52)

- (5) Swylke one ne saghe j neuer none;
Als dose the sonne on *someres daye*,
That fair lady hir selfe scho schone.

(*Thomas of Erceldoune*, 46-48)¹¹⁾

この語の韻文ロマンスにおける用例はおそらく数多く、そのすべてを引けば、「夏の一日をついやすことにもなるであろう。」¹²⁾ だが、上掲の例だけからも、このロマンスに共通の詩語が、(1)と(2)の例のように、聴き手に事の発端を告げる、いわば、口誦詩に特有な表現の一部として、また(3)をもとにした(4)、(5)の平明・簡勁な比喩表現の一部として用いられることにより、ロマンス独特の語彙のひとつになっていることがわかる。さらに、女性についての比喩である(5)の例が、チャウサーの前掲の比喩の手本になっているのだが、またこの複合語がチャウサーの作品のほうぼうで頻用されていることは、コンコードダンスに徴しても明らかである。たとえば、彼と同時代のガウアー (John Gower) はロマンスにたいして終始沈黙を守っていたといわれるが、この複合語についていえば、別の複合語 *somer dai* をただの一回使用しているだけである¹³⁾。チャウサーのロマンスとの深い結びつきはこのことから想像できる。ちなみに、「チャウサーの^{スビドチ}ことばにはロマンスの言語が反映している」とつとに指摘しているパッチ (H. R. Patch) が、「(「商人の話」の比喩について) 読者はなにを思うであろうか。あるいは、実人生にたいする子細な観察がよく生みえたと早合点しないでもない」と述べていることを思いだすであろう¹⁴⁾。

ところで、パッチのこうした示唆がたんに想像からのことでないことは、次の事実によって十分知ることができよう。たとえば、チャウサーの複合名詞 (322 語) のうち彼が伝統からうけとったと見られるのは 143 語であるが、その約半数の 70 語がこの韻文ロマンス

11) L. H. Loomis, *op. cit.*, p. 524.

12) "Thanne wolde it occupie a *somers day*" (*CT. SqT*, 64).

13) "This was upon a *Somer dai*" (*Confessio Amantis*, ii 732).

14) Howard Rollin Patch, "Chaucer and Mediaeval Romance", *Essays in Memory of Barrett Wendell* (1926), rpt. in his *On Rereading Chaucer* (Cambridge, Mass: Harvard Univ. Press, 1939), p. 197.

の詩語と関係があるということである。チャーサーがロマンスの複合語について、これだけしか知らなかったということではもちろんない¹⁵⁾。また、この70語という事実についての解釈もさまざまにあり、また、別の分類法によれば、ちがったような結果も生ずるかも知れない。しかし、それらはさておき、とにかくこのことは、いっぽうでチャーサーの複合語の造語の部分のうち多くのものがOF系の混種語であったという事実とともに、チャーサーの複合語の系譜に関する2つの特徴、さらに彼の語彙を考えるさいの2つの重要な指標になっているということが出来る。また、さきのパッチのことはさらに敷衍して、この韻文ロマンスの伝統がこの詩人にとって重要な実質として、いわば '*herte-blod*' のようなものになっていたということができよう。それは同時に、本稿の始めに述べたように、チャーサーの直接の詩語の伝統がロマンスであるとする最近の傾向に、ひとつの証拠を呈出することにもなるのである。この場合、このロマンスの伝統がたとえ良質のものでなく、ときにその欠陥がチャーサー自身の嘲笑を招いたことがあったにしても、それはまた別の問題なのである。いま、チャーサーのロマンスに関係する70の複合語について、その系譜を要約してみると以下のようなになる[(A), (B)は前期・後期のロマンスを示す]。

- (1) Lay. *Brut* — (A) — (B) — Chaucer (e. g. *herte-blod*: lifeblood)
 - Lay. *Brut* 15845: Nulle hit nauere god seolf...
 thet thi castel stonde for mine heorte blode.
 - (A) *Havelok* 1819: The fifte... Gaf he a ful sor dint ek...
 That he spen his herte blod.
 - (B) *Arth. & M.* 1221: Her cometh the kinges messanger...
 For to han min hert blode.
 - Chaucer *CT. Kn.* A. 2006: The sleere of hymself yet saugh I ther,
 His herte blood hath bathed al his heer.
- (2) (A) — (B) — Chaucer (e. g. *deth wounde*: lethal wound)
 - (A) *Horn* 640: Ismot hem alle to grunde Other gaf hem dithes wunde.
 - (B) *Guy* 3490: Smiteth with swerdes 5 speres y-grounde,
 Scheteth with piles & gif hem deth wounde.
 - Chaucer *TC.* 3. 1697: Hem thought feelen dethis wownde.
- (3) (B) — Chaucer¹⁶⁾ (e. g. *bor-heued*: *heraldry* boar's head in a shield)

15) チャーサーの複合名詞(143語)には、ロマンスと直接関係しているもののほかに、古いもので、説話文学や聖人伝集 (e. g. *Ancrene Riwele*, *St. Juliana*, *South-English Legendary*) から来ている語彙が多く、30語にものぼっている。ロマンスがこれらの語彙を使用していることも事実であり、また前期に属するロマンスの多くが失われたことも事実であれば、チャーサーがおそらくこれらの語彙を現存しないロマンスから入手したとも想像できるであろう。

16) 従来、チャーサーと韻文ロマンスの関係についての研究は、主として、この(3)の面に集中していたといつてよい。とくに(B)では、オーキンレック草稿に関係する脚韻ロマンスが、チャーサーでは「サー・トーマス」が興味の中心になっていた。しかし、チャーサーの詩語の解明に、今後さらに両者の関係が精査されるものとすれば(梶井迪夫, D.S. Brewer, ed. *Chaucer and Chaucerians* の書評, 『英文学研究』, Vol. 44, No. 2, 1968, p. 244), ここに要約した3つの系統について等しい注意が払われてよいであろう。

(B) *Libeaus 1568*: Hys scheld was of gold fyn,
The bores heddes therine.

Chaucer *CT. Th. B. 2060*: His sheeld was as of gold so reed,
And therinne a bores heed.

上の (1) についていえば、チャウサーの複合名詞のなかで、『ブルート』にも起っている 20 語のうち、18 語はロマンスを経由しているということを付け加えることができる。ロマンスについての毀誉はここで語らないが、少くとも、ロマンスが『ブルート』や古英詩の詩語の伝統から自らに適した語をえらびとり、さらに自らが生みだした多くのものをそれに加えながら、チャウサーの手にあたえたことをひとつの長所として認めなくてはならない。そして、素顔のチャウサーがときに親しげに聴衆に語りかけるとき、そのことばにひとりであられる古いよきものが、また詩人自身その長所を認めていたよい証拠になるであろう。

But now help God to quenchen al this sorwe!
So hope I that he shal, for he best may.
For I have seyn, of a ful misty morwe
Folowen ful ofte a myrie *someris day*;
And after wynter foloweth grene May.
Men se alday, and reden ek in stories,
That after sharpe shoures ben victories.

(*Tr. iii, 1058-64*)

2. 『ブルート』や、それ以降の頭韻詩に起こる複合語を精細に調べることにより、かつてオークデンは古英詩の伝統の中英語期における凋落のあとをたどったことがある。この小論は、このオークデンに倣いながら、彼のとは反対に、ロマンスとチャウサーの複合名詞をもとにして、そこに新しい詩語の形成と発展の相を粗描しようとするところみであった。しかしながら、この伝統の形成と発展は、いかえれば、自国の詩語、あるいは文学語としての英語をつくりだそうとする、いわば産みの苦しみに似た過程であったといってもよいのである。それは、中英語とよばれる当時の言語が、フランス語にかかわって、ようやく法廷や議会の公用語として使用されたのが 1350 年以降のことであったことを思えばよい。また、『ホーン王』を皮切りに、自国語によるロマンスが伝統をきずきあげるためには、ロマンスのもういっぽうの供給者であったアングロ・ノルマンの言語 (Anglo-Norman) とのたえざる角逐があったことを想像すればよい¹⁷⁾。本稿では、こうした伝統の形成をみ

17) M. Dominica Legge, *Anglo-Norman Literature and its Background* (Oxford: At The Clarendon Press, 1963), p. 370.

るために、ロマンスの複合語に重点を置く論述になってしまったが、チャウサーの語彙がロマンスの詩語の統合であり、またその完成であったと考えるとき、さらにチャウサーの新語使用 (neologism)、またそれとこの韻文ロマンスの詩語との関係について多くの考察を必要とするであろう。しかし、これらの問題については別の機会に述べることにする。

なお、本稿に収録した語彙目録について説明し、この稿を終ることにしよう。

目録は (A), (B), (C) の3部に分かれ、それぞれ (A) には、前期のロマンス3編に起こる複合名詞 (58語)、(B) には、後期の5編に起こる70語のうちすでに (A) に収められている語をのぞいた55語、また (C) には、チャウサーの複合名詞のうちでロマンスに関係する70語から、すでに (A), (B) に収められている語をのぞいた32語をかかげている。

目録中の作品また写本の略名については、(A) のなかの2編、すなわち *Floris and Blancheflour*, *The Lay of Havelok the Dane* をそれぞれ *Fl.*, *Hav.* に略した以外は、すべて Hans Kurath and Sherman M. Kuhn (ed.), *Middle English Dictionary* (*MED* と略す) によっている。

目録 (A), (B) の構成については、左側第1欄に、語、出典、行数および頁数、英語による大意 (カッコ内) など、つづいて8箇の小欄で、語の特徴を示している。これらの特徴は見出しに関係があるか、ないかによって、それぞれプラス、マイナスの記号で示す。また本稿の主題に係わるものとして選んだ特徴は下記の通りである。

- 1) OE origin: 古英語に存在しているか。Bosworth and Toler (ed.), *An Anglo-Saxon Dictionary* による。
- 2) Lay. Brut: ラヤモンの『ブルート』に起こるか。
- 3) First instance & Unique: 英語における初例か、また他の作品に起こらない、独特の例か。あとの場合、該当すればカッコでプラスをくくる。OED, MED による。
- 4) (A) Later romances: 後期ロマンスに起こるか。(B) Other romances: 同時代の他のロマンスに起こるか。
- 5) Chaucer's works: チャウサーの作品に起こるか。
- 6) Chaucer's contemporary works: チャウサーと同時代の、とくにガウアー、ラングランド、『ガウエイン』の詩人の作品に起こるか。
- 7) Hybrid compound (OF): OF系の混種複合語か。
- 8) Rime word: 脚韻語として使用されているか。

目録 (C) の構成については、(A) の3, 4, 5) をのぞいた5箇の特徴を示し、また最後の欄で、ロマンスの作品名をかかげている。

2.1. (A)

Word and Reference	1) OE origin	2) Lay. <i>Brut</i>	3) First instance & Unique	4) Later romances	5) Chaucer's works	6) Chaucer's con-temporary works	7) Hybrid compound (OF)	8) Rime word
<i>ber(e)-man</i> , Hav. 876 etc. (porter)	+	+	-	-	-	-	-	-
<i>bondeman</i> , Hav. 32 (customary tenant)	-	-	-	-	+	+	-	-
<i>brudale</i> , Horn 1032 (wedding feast)	+	-	-	+	+	+	-	+
<i>bulder-ston</i> , Hav. 1970 (boulder)	-	-	+	-	-	-	-	-
<i>carte-lode</i> , Hav. 895 (cartload)	-	-	+	-	-	-	-	+
<i>castel-walle</i> , Horn 1042 (castle wall)	-	-	-	+	+	-	-	+
<i>chambre-wowe</i> , Horn 972 (chamber wall)	-	-	+	-	+	-	-	-
<i>chap-man</i> , Fl. 146, Hav. 51 (merchant)	+	+	-	+	+	+	-	-
<i>charbuncle-stoon</i> , Fl. 172, Hav. 2145	-	-	+	+	-	-	+	+
<i>dai-liht</i> , Horn 124 (daylight)	-	+	-	+	+	+	-	+
<i>day-belle</i> , Hav. 1132 (morning bell)	-	-	+	-	-	-	-	-
<i>deth wounde</i> , Horn 640 (lethal wound)	-	-	-	+	+	+	-	+
<i>dore-tre</i> , Hav. 1806 (door jamb)	-	-	+	-	-	+	-	+
<i>drit-cherl</i> , Hav. 682 (worthless fellow)	-	-	(+)	-	-	-	-	+
<i>duwe-pin</i> , Horn 973 (bolt of a door)	-	-	+	-	-	-	-	+
<i>felawe-vede</i> , Horn 174 (a body of soldiers)	-	-	+	+	-	-	-	+
<i>fir-stick</i> , Hav. 966 (firewood)	-	-	(+)	-	-	-	-	+
<i>fourtenyht</i> , Fl. 90, Hav. 2284	?+	+	-	+	+	-	-	+
<i>freemason</i> , Fl. 656 (master mason)	-	-	+	-	-	-	+	+
<i>fre-man</i> , Hav. 628 (as opposed to bondmen)	+	+	-	-	+	+	-	-
<i>galwe-tre</i> , Hav. 43 etc. (gallow)	+	-	-	+	-	-	-	+
<i>gate-word</i> , Horn 1067, Fl. 595 (gate keeper)	-	+	-	+	-	+	-	+
<i>gode men</i> , Hav. 1 (as item of address)	+	+	-	+	+	+	-	+
<i>grith-sergean</i> , Hav. 267 (officer to keep the peace)	-	-	(+)	-	-	-	+	-
<i>halle gate</i> , Horn 1474 (gate before a mansion)	-	-	-	-	-	+	-	+
<i>hand-ax</i> , Hav. 2553 (battle-axe)	+	-	+	-	-	-	-	-

2.1. (A) つづき

Word and Reference	1) OE origin	2) Lay. <i>Brut</i>	3) First instance & Unique	4) Later romances	5) Chaucer's works	6) Chaucer's con-temporary works	7) Hybrid compound (OF)	8) Rime word
<i>hand-dede</i> , Hav. 92 etc. (martial exploit)	+	-	-	+	-	-	-	+
<i>handes wringing</i> , Hav. 235 (objects in the hand)	-	-	+	+	-	-	-	-
<i>hern-panne</i> , Hav. 1991 (brainpan)	-	-	+	+	-	-	-	+
<i>herte-blod</i> , Hav. 1819 (lifeblood)	-	+	-	+	+	-	-	+
<i>hert-roote</i> , Fl. 117 (bottom of the heart)	?+	-	-	-	+	+	-	+
<i>heuene-riche</i> , Hav. 133 (kingdom of heaven)	+	+	-	+	-	+	-	+
<i>hold-othe</i> , Hav. 2781 (oath of allegiance)	+	-	-	+	-	-	-	-
<i>horse-knaue</i> , Hav. 2781 (stableboy)	-	-	+	-	-	+	-	+
<i>kingeriche</i> , Horn 17, Fl. 348 (kingdom of heaven)	+	+	-	+	-	+	-	+
<i>kradelbarn</i> , Hav. 1912 (babe in the cradle)	-	-	(+)	-	-	-	-	+
<i>kyne-merk</i> , Hav. 604 etc. (king-mark)	-	-	+	+	-	-	-	+
<i>lyf-dawe</i> , Horn (R.) 914, Fl. 48 (lifedays)	+	+	-	+	-	+	-	+
<i>luue-drury</i> , Hav. 195 (love-making)	-	-	+	+	+	-	+	+
<i>maister-king</i> , Horn 642 (chief king)	-	-	-	+	-	-	+	+
<i>man-rede</i> , Hav. 2248, Fl. 395 (homage)	+	+	-	+	-	-	-	-
<i>marble-stone</i> , Fl. 573	-	-	-	+	+	-	+	+
<i>masse-bok</i> , Hav. 391 etc.	+	-	-	-	-	-	-	-
<i>middelniht</i> , Horn 1297	+	+	-	-	-	-	-	+
<i>milne-hous</i> , Hav. 1967 (mill-house)	-	-	+	-	-	-	-	+
<i>moder child</i> , Horn 648 (person)	+	-	-	-	-	-	-	+
<i>morne-tyde</i> , Fl. 836 (morning-tide)	+	-	-	+	+	-	-	+
<i>mylderde</i> , Fl. 836 (world)	+	+	-	+	-	+	-	+
<i>nither-tale</i> , Hav. 2065 (night-time)	-	-	+	-	+	-	-	-
<i>romanz-reding</i> , Hav. 2327	-	-	+	+	-	-	+	-
<i>sculder-blade</i> , Hav. 2644 (scapula)	-	-	+	+	-	-	-	+
<i>someres day</i> , Horn 29 (summer's day)	-	-	+	+	+	-	-	+

2.1. (A) つづき

Word and Reference	1) OE origin	2) Lay. Brut	3) First instance & Unique	4) Later romances	5) Chaucer's works	6) Chaucer's con-temporary works	7) Hybrid compound (OF)	8) Rime word
<i>sunne-bem</i> , Hav. 592 etc. (sunbeam)	+	-	-	-	+	-	-	+
<i>thornebake</i> , Hav. 759 (thornback)	-	-	+	-	-	-	-	+
<i>tresour-hous</i> , Fl. 182 (a treasury)	-	-	+	-	-	-	+	-
<i>wed-lac</i> , Horn 1254 (marriage)	+	+	-	-	+	+	-	-
<i>wude-lighe</i> , Horn 1158 (? glade or glove)	-	-	-	-	-	-	-	+
<i>wude side</i> , Horn 1024 (edge of a wood)	-	-	+	-	-	-	-	+

2.2. (B)

Word and Reference	1) OE origin	2) Lay. Brut	3) First instance & Unique	4) Other romances	5) Chaucer's works	6) Chaucer's con-temporary works	7) Hybrid compound (OF)	8) Rime word
<i>almes-dede</i> , Guy p. 611 (deeds of mercy)	+	-	-	+	+	-	-	+
<i>aven-tide</i> , Degare 218 (eventide)	+	-	-	+	+	+	-	+
<i>appel tre</i> , Guy 3966 (apple wood)	+	-	-	+	-	+	-	+
<i>bor-heuedes</i> , Degare 996 (boar's head in a shield)	-	-	+	+	+	+	-	-
<i>brest-bon</i> , Degare 530 (collarbone)	+	-	-	+	+	-	-	+
<i>brugge ende</i> , Guy 4628 (head of a bridge)	-	-	-	-	-	+	-	+
<i>castel-gate</i> , Amis 1891, Reinbroun 38	-	+	-	+	+	-	-	+
<i>chastein-tre</i> , Degare 72	-	-	+	+	-	-	+	-
<i>chaumber-side</i> , Amis 770	-	-	+	-	-	-	-	+
<i>cheping-toun</i> , Amis 1700 (market town)	-	-	+	+	-	-	+	+
<i>child-bedde</i> , Orfeo 399 (confinement)	-	-	-	+	-	-	-	+
<i>cite-toun</i> , Amis 1864, Degare 428 (capital)	-	-	+	+	-	-	+	+
<i>croude-wain</i> , Amis 1858 (handcart)	-	-	(+)	-	-	-	-	+

2.2. (B) つづき

Word and Reference	1) OE origin	2) Lay. <i>Brut</i>	3) First instance & Unique	4) Other romances	5) Chaucer's works	6) Chaucer's con-temporary works	7) Hybrid compound (OF)	8) Rime word
<i>damsax</i> , Guy 3585 (axe of Devonshire)	-	-	(+)	-	-	-	-	-
<i>dere-hunting</i> , Amis 497, Guy 6645	-	-	(+)	+	-	-	-	+
<i>deth dint</i> , Degare 943 (deathblow)	-	-	-	+	-	-	-	-
<i>fole-sage</i> , Amis 1946 (wise fool)	-	-	+	+	-	+	+	+
<i>foo-man</i> , Amis 932 (adversary)	+	-	-	+	+	+	-	+
<i>forest plain</i> , Amis 1425 (clearing in the woods)	-	-	(+)	-	-	-	+	-
<i>girdel-stede</i> , Guy 3582, Orfeo 264 (waist)	-	-	+	+	+	-	-	-
<i>gold-smith</i> , Amis 244	+	-	-	-	+	-	-	-
<i>grehound</i> , Guy 827, Reinbroun p. 662 (greyhound)	+	-	-	+	+	-	-	-
<i>hal(l)e-dore</i> , Guy 1184, Reinbroun p. 654 (door of a palace)	-	+	-	+	+	+	-	+
<i>halven-del</i> , Degare 316 (a half portion of anything)	-	+	-	+	+	+	-	-
<i>hawethorn bough</i> , Guy 4532	-	-	(+)	-	-	-	-	+
<i>heuene-kyng</i> , Degare 32, Amis 128 (God, Christ)	+	+	-	+	+	-	-	+
<i>holin-tre</i> , Guy 6781 (holy bush)	-	-	+	-	-	-	-	+
<i>hors fet</i> , Guy 5897 (horse's feet)	-	-	+	-	-	-	-	+
<i>hors-tail</i> , Guy 922 (horse's tail)	-	-	-	-	-	-	-	+
<i>knaue-scild</i> , Amis 32, Degare 181 (male child)	?+	+	-	+	+	+	-	-
<i>land-folk</i> , Reinbroun p. 646 (natives)	+	+	-	-	-	-	-	-
<i>lekes clef</i> , Guy 3644 (clove of garlic)	?+	-	(+)	-	-	-	-	+
<i>loue-longing</i> , Amis 539	-	-	+	-	+	-	-	-
<i>luwe-morning</i> , Amis 482 (love-morning)	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>maidenchild</i> , Degare 18 (female child)	+	-	-	+	-	-	-	-
<i>man-kende</i> , Amis 303 etc. (mankind)	+	-	-	-	-	-	-	+
<i>meles mele</i> , Amis 1607, Guy 6845 (repast)	-	-	+	+	-	+	-	-
<i>mone liht</i> , Degare 220 (moonlight)	-	-	+	-	+	-	-	+
<i>mynning-day</i> , Degare 37 (mind-day)	+	-	-	-	-	-	-	+
<i>nek-bon</i> , Guy 5326 (neck-bone)	-	-	+	+	+	+	-	-

2.2. (B) つづき

Word and Reference	1) OE origin	2) Lay. <i>Brut</i>	3) First instance & Unique	4) Other romances	5) Chaucer's works	6) Chaucer's con-temporary works	7) Hybrid compound (OF)	8) Rime word
<i>orchard side</i> , Orfeo 64 etc.	-	-	+	+	-	-	-	+
<i>pleye-fere</i> , Reinbroun p. 635 (play-fellow) Guy 1682 etc.	-	+	-	+	-	-	-	+
<i>rig-bon</i> , Degare 450 (ridge-bone)	+	-	-	-	-	+	-	+
<i>scheltrome</i> , Guy 2010 etc., Orfeo 185 (phalanx)	+	+	-	+	-	+	-	+
<i>seuenniht</i> , Amis 658	+	+	-	-	+	-	-	+
<i>somers tyde</i> , Amis 411, Guy 4502	+	-	-	+	-	-	-	+
<i>stede neh</i> , Guy 4838	-	-	(+)	-	-	-	-	-
<i>stone-wall</i> , Guy 6338	+	+	-	-	+	-	-	+
<i>suster sone</i> , Guy 2722	+	-	-	+	-	-	-	+
<i>swete hert</i> , Orfeo 100	-	-	+	-	+	-	-	-
<i>undren-tyde</i> , Orfeo 63 etc. (morning)	+	-	-	+	-	-	-	+
<i>winter-schour</i> , Orfeo 59	+	-	-	-	-	-	-	+
<i>wode schawe</i> , Guy 4730 (thicket)	-	+	-	+	-	+	-	+
<i>wordes-winne</i> , Amis 2256 (earthly joy)	-	-	-	-	-	-	-	+
<i>ympe-tre</i> , Orfeo 68 etc. (young tree)	-	-	(+)	-	-	-	-	+

2.3. (C)

Word and Reference	OE origin	Lay. <i>Brut</i>	Chaucer's con-temporary works	Hybrid compound (OF)	Rime word	Romance
<i>bel-ami</i> , CT, Pard, C 318 (fair friend; iron, rascal)	-	-	-	+	-	Fl. (Auch), Arth. & M. (Auch), 7 Sages, Guy (Sln).
<i>bugle-horn</i> , CT, Fkl, F 1253 (drinking-horn)	-	-	-	+	-	
<i>candel-tyght</i> , CT, Mil, A 3634	-	+	-	-	+	Bevis (Auch), 7 Sages (Auch), Firumb.
<i>chirche-dore</i> , CT, Prol, A 460	+	-	-	-	-	Le Freine (Auch), Arth. & M. (Auch), Degrev, RSicily.
<i>chirche-hawe</i> , CT, Pars, I 801 (churtyard)	-	-	-	-	-	Arth. & M. (Auch), 7 Sages (Auch).
<i>cote-armure</i> , HF 1326 etc. (coat of arms)	-	-	+	+	+	Firumb.

2.3. (C) つづき

Word and Reference	OE origin	Lay. Brut	Chaucer's con- temporary works	Hybrid compound (OF)	Rime word	Romance
<i>donghul</i> , PF 597 (dunghill)	-	-	+	-	-	7 Sages (Auch).
<i>ending-dai</i> , CT. WB. D 507 (dying day)	-	-	+	-	+	Tristrem (Auch), 7 Sages.
<i>even-song</i> , CT. Prol. A 830	+	-	+	-	-	Arth. & M. (Auch), RSicily.
<i>font-ston</i> , CT. ML. B 723 (baptismal font)	-	-	-	-	-	Le Freine (Auch), Firumb,
<i>forest-side</i> , BD 372 etc.	-	-	-	+	+	Tristrem (Auch), Le Freine (Auch), Liberaus, KALex, Degrev., Ipom.
<i>gold-finch</i> , CT. Co. A 4367	+	-	-	-	-	KALex.
<i>hal-peny</i> , CT. Sum. D 1749 (halfpenny)	+	-	-	-	-	Guy (Cai), KALex.
<i>hand-brede</i> , CT. Mil. A 3811 (four inches)	+	-	-	-	-	RSicily, Guy (Cai).
<i>helle-pit</i> , BD 171	-	-	-	-	-	Arth & M. (Auch).
<i>heven-blisse</i> , TC. 3. 704 (joyous experience of love)	-	-	+	-	+	Arth & M. (Auch).
<i>heven-quene</i> , CT. CY. G 1089 (Virgin Mary)	-	-	+	-	-	Arth & M. (Auch), Emare.
<i>hond-werk</i> , CT. Fri. D 1562	+	-	-	-	-	WPal., RRose.
<i>lechecraft</i> , TC. 4. 436 (art of medicine)	+	+	+	-	+	7 Sages (Auch).
<i>lodesman</i> , LGW 1488 (lodeman)	-	+	-	-	-	Beryn.
<i>love-drinke</i> , CT. WB. D 754 (love-potion)	-	-	-	-	+	Tristrem (Auch).
<i>mile-wey</i> , CT. Sh. B 276	-	-	+	-	+	WPal.
<i>morwe-tyde</i> , CT. Fkl. F 901 (morning hour)	-	-	-	-	+	Firumb.
<i>pome-garnettys</i> , RRose 1356	-	-	-	+	-	Horn Ch. (Auch).
<i>rewel-boon</i> , CT. Th. B 2068 (ivory)	-	-	-	+	-	Ipom., Degrev., Thomas of Erceld.
<i>sadel-bow</i> , CT. Kn. A 2691 (saddle-bow)	+	-	-	-	+	Arth & M. (Auch).
<i>saf-condwyt</i> , TC. 4. 139 (Cm) (safe-conduct)	-	-	+	+	-	Rich. (Auch).
<i>sholder-bone</i> , CT. Pard. C 350	-	-	-	-	+	Bevis (? Auch)
<i>staf-slynge</i> , CT. Th. B 118 (slingshot)	-	-	-	-	-	Rich. (? Auch)
<i>trewe love</i> , CT. Mil. A 3692	+	-	+	-	-	Emare.
<i>warde-cors</i> , CT. WB. D 359 (body-guard)	-	-	-	+	-	Otuel (Auch).
<i>welle-stremes</i> , PF 187	+	+	+	-	-	Arth & M. (Auch).